

目 次

- ・ 歯大協、尾辻厚生労働大臣に  
 歯科医師国家試験について要求書提出 ……3
- ・ 平成 17 年度 父兄会・共済会総会開催 ……4
- ・ 平成 17 年度 地方父兄会開催 ……4
- ・ 第 37 回 全日本歯科学生総合体育大会 ……4
- ・ 平成 18 年度 入学試験実施要項 ……4
- ・ 平成 17 年度 科学研究費補助金交付  
 ならびに学内学術研究助成金交付 ……5
- ・ 大阪歯科大学公開講座・天満橋講座 ……9
- ・ 平成 17 年度 備品調査 ……9

- ・ 平成 17 年度 実験動物慰霊祭 ……9
- ＜トピックス＞
- ・ コロンビア大学短期研修コース  
 「インプラント2005」 ……10
- ・ 第 11 回 SCP 日本代表選抜大会で  
 5 年生の陳 資史さんが研究発表 ……13
- ・ 寄 贈 ……14
- ・ 学位（博士）授与報告 ……14
- ・ 人 事 ……14



コロンビア大学インプラント研修セミナー2005

### 歯大協、尾辻厚生労働大臣に 歯科医師国家試験について要求書提出

日本私立歯科大学協会(会長:佐川寛典大阪歯科大学理事長)は、平成17年7月11日付けで尾辻秀久厚生労働大臣宛に「歯科医師国家試験について(要求)」と題する要求書を提出した。この要求書は、同協会の佐川会長をはじめ17私立歯科大学および歯学部 of 学長ならびに歯学部長等の連名によるもので、①相対評価基準設定の根拠、②必修問題の適正なる判定運用、③歯科医師国家試験問題の公表の三点について、当局に見解を求めるとともに回答を要求するものである。

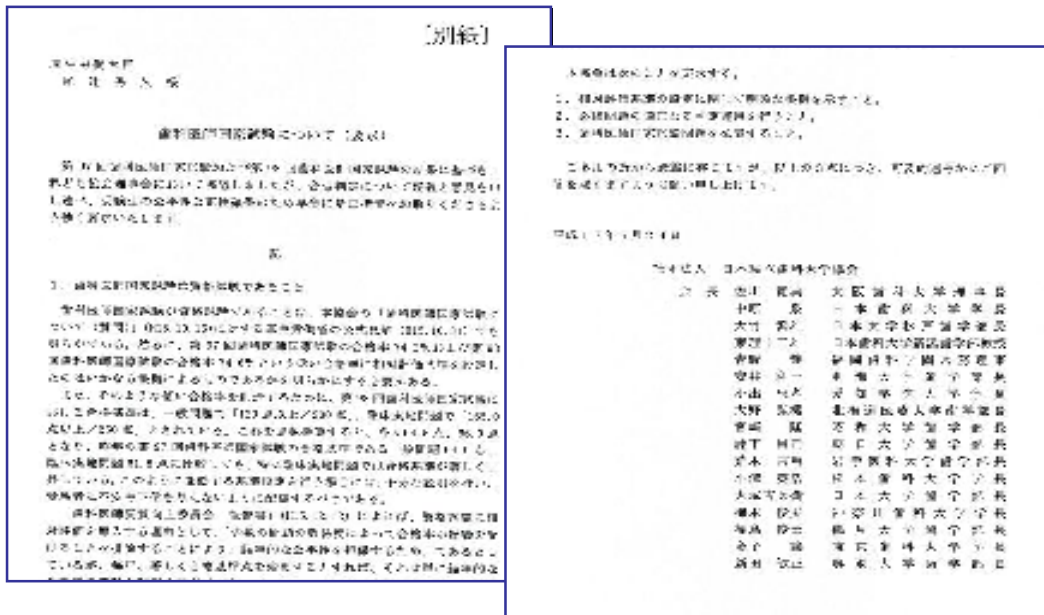
同協会は、第97回および第98回歯科医師国家試験の結果(ともに合格率は74.2%および74.6%と低くなっている)に基づき、第一点目として、第97回から一般試験および臨床実地試験において導入された相対評価の基準の根拠を明確にすることを求めている。歯科医師法第9条は「歯科医師国家試験は、臨床上必要な歯科医学及び口腔衛生に関して、歯科医師として具有すべき知識及び技術について、これを行う」と規定しており、これは明らかに受験生に歯科医学の知識と技術を問う資格試験である。臨床に必要と認められる知識と技術を有しているかどうかの問題であって、採用試験のように採用する人数が問題となる試験ではない

からである。ところが、過去2回の結果を見ると、合格率はともに74%台と低くなっており、同じく数年前に相対評価を導入後の医師国家試験の合格率が90%前後で推移しているのと顕著な差異が認められる。相対評価の指標とされている得点分布および標準偏差の取り扱いにおいて、何らかの理由により低く調整されている懸念がある。したがって、厚生労働省は相対評価基準の根拠を明確にする必要があるとしている。

二点目としては、必修問題において何問かを「妥当でない」として削除したことにより受験生に不利益を与えないよう処理すること、三点目として、国家試験問題は第95回から事後回収されているが、その公表を要求するものである。

これらは、歯科医師の教育機関として当然の要求である。受験生は、歯科医師国家試験において公正な評価を受ける権利を有し、逆に国は歯科医師法の趣旨に基づく歯科医師国家試験を実施する義務を負う。歯科医師国家試験の趣旨から逸脱した要因により、受験生に不利益があってはならないのである。受験生の公平性・公正性確保のためには、国家試験問題の公表および相対評価基準内容の明確化は必要不可欠であると考えられる。

出口(国家試験)における調整の認知は、次に入口(入学定員)へ向かうであろう。歯科大学にとっては、存続にかかわる、見過ごすことのできない問題である。



### 平成17年度 父兄会・共済会総会開催

平成17年7月2日(土)午後1時より、平成17年度父兄会ならびに共済会総会が本学楠葉学舎にて開催された。

父兄会、共済会総会、父兄会幹事会は大講堂において開催され、午後2時より個人懇談会が学年ごとに1号館および2号館の大講義室ならびに実習室で行われた。約300名のご父母が出席され、平成18年度から本格的に実施される共用試験歯学系CBTやOSCEをはじめ歯科医師臨床研修必修化等についての説明を熱心に視聴されていた。

### 平成17年度 地方父兄会開催

平成17年度は山陽地区(広島県・岡山県・山口県)を対象に、8月28日(日)午後1時から「ホテルグランヴィア広島」において地方父兄会を開催した。

父兄会を代表して片尾幹事長、本学からは今井学長をはじめ大東学生部長、川本教務部長、小谷教授、川合教授が出席した。総会のあと個人懇談会を開催し、出席された21名のご父母と面談した。



### 第37回 全日本歯科学生総合体育大会

今年は九州歯科大学が事務主管校で、8月1日(月)から8月12日(金)まで12日間にわたり開催された。

本学の成績は総合で第4位、部門別ではラグビーフットボール、弓道、アーチェリー、日本拳法、漕艇の5種目において優勝した。また、ボウリング、柔道、ヨットが第2位、空手道が第3位の成績をおさめた。

### 平成18年度 入学試験実施要項

本学が平成18年度に実施する入学試験の概要は、以下の通りである。

#### 平成18年度推薦入学試験

- ・ 出願期間 平成17年11月7日(月)～11月18日(金)
- ・ 募集人員 28名
- ・ 出願資格 高校卒業見込みで、調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者で、1校2名以内
- ・ 試験日 平成17年11月26日(土)
- ・ 試験科目 小論文および面接
- ・ 合格発表 平成17年12月14日(水)
- ・ 入学手続 平成17年12月21日(水)正午締め切り

#### 平成18年度一般入学試験

- ・ 出願期間 平成18年1月10日(火)～1月30日(月)
- ・ 募集人員 100名
- ・ 試験日 平成18年2月4日(土)
- ・ 試験科目 数学・理科・外国語・小論文
  - ・ 数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B)
  - ・ 理科(物理Ⅰ・物理Ⅱ, 化学Ⅰ・化学Ⅱ, 生物Ⅰ・生物Ⅱのうち, 1科目を試験会場で選択)
  - ・ 外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング)
- ・ 面接 平成18年2月5日(日)
- ・ 合格発表 平成18年2月10日(金)
- ・ 入学手続 平成18年2月20日(月)正午締め切り

平成17年度 科学研究費補助金ならびに  
学内学術研究助成金交付

平成17年度の科学研究費補助金は新規に10件が採択され、継続採択分の18件とあわせて合計28件、総額38,300,000円が交付された。研究種目別では、基盤研究(B)が継続6件、基盤研究(C)が13件(内新規6件)、

萌芽研究が新規1件、若手研究(B)が8件(内新規3件)であった。

また、学内における学術研究助成金も交付された。学術研究奨励助成金は、大学院生6件、教員6件の合計12件が採択され、総額10,636,200円が交付された。共同研究助成金は6件21,710,000円、奨励資金は1件7,100,000円、口腔インプラント研究助成金は4件で3,000,000円がそれぞれ交付された。

平成17年度 科学研究費補助金採択者一覧

所 属	研究代表者	研究種目	研 究 課 題	助成額(円)
有歯補綴	楠本 哲次	基盤研究(B) (継)	咀嚼における脳機能画像による賦活ネットワークの統合解析	1,300,000
薬 理	野崎 中成	基盤研究(B) (継)	遺伝子操作によるodontoma自然発症モデルマウスの系統樹立と発症機構の解明	2,600,000
解 剖	諏訪 文彦	基盤研究(B) (継)	咀嚼機能を営む連結人工歯根・天然歯外周の骨と血管構築に関する実験的研究	300,000
歯科理工	中村 正明	基盤研究(B) (継)	可塑性フリーの軟質裏装材の開発	1,600,000
口腔衛生	神原 正樹	基盤研究(B) (継)	初期齲蝕早期検出に関する研究	900,000
歯科理工	大島 浩	基盤研究(B) (継)	金属アレルギーの歯科検査を目指した基礎的研究	4,100,000
生 化	池尾 隆	基盤研究(C) (継)	硬組織再生に及ぼすアディポサイトカインの効果	1,600,000
口腔治療	戸田 忠夫	基盤研究(C) (継)	多孔質セラミックス担体を用いた未分化間葉細胞分化による歯髄・象牙質複合体再生	1,100,000
欠損補綴	畦崎 泰男	基盤研究(C) (継)	実験的咬合障害が自律神経反応におよぼす影響	700,000
欠損補綴	前田 照太	基盤研究(C) (継)	大白歯欠損(短縮歯列)が唾液中ストレスホルモンに及ぼす影響	1,100,000
欠損補綴	井上 宏	基盤研究(C) (継)	咬合障害を与えたラットの前頭皮質ドーパミン放出は精神的ストレスに起因する	1,000,000
口腔外科一	森田 章介	基盤研究(C) (継)	間葉系幹細胞と生体材料を用いた二次的血管柄付き移植骨による顎骨再建の実験的研究	800,000

内科	宮前 雅見	基盤研究(C) (継)	歯科全身麻酔時の揮発性吸入麻酔薬による 心筋保護作用の細胞内メカニズムの解明	1,600,000
歯科保存	川本 雅行	基盤研究(C)	歯科医学教材作成のための汎用3次元CGモ デルライブラリの構築とその有用性の検討	2,300,000
口腔治療	好川 正孝	基盤研究(C)	歯髄・象牙質複合体再生のための骨髄幹細 胞による硬組織形成の培養補助剤と多孔質 担体	1,400,000
口腔治療	至田 宗泰	基盤研究(C)	菌体内毒素に対する水酸化カルシウムの有 効性	1,100,000
歯科理工	橋本 典也	基盤研究(C)	ナノテクノロジーを応用した歯科用バイオ センサの開発	2,000,000
歯科理工	今井 弘一	基盤研究(C)	インジウムを含む歯科用合金の発生毒性リ スクの検討	2,100,000
高齢歯科	樋口 裕一	基盤研究(C)	レーザーアブレーション法(ナノテク)を 用いたアパタイト超薄膜インプラントの開 発	1,500,000
歯科理工	中村 正明	萌芽研究	自己組織誘導能を有する新規吸収性足場材 料の開発	1,000,000
口腔病理	富永 和也	若手研究(B) (継)	アデノウイルスE1a遺伝子を利用した口腔癌 に対する新治療法開発	700,000
生理	井上 博	若手研究(B) (継)	NK細胞における細胞障害能を活性化するシ グナル伝達機構の解析	1,100,000
口腔衛生	川崎 弘二	若手研究(B) (継)	エナメル質初期う蝕病巣の再石灰化に対す る唾液タンパク質の影響	300,000
歯科理工	秋山 真理	若手研究(B) (継)	牛骨膜細胞の再生能力を利用した新しい骨 再生法のメカニズム解析	1,500,000
高齢歯科	川本 章代	若手研究(B) (継)	骨新生を目的としたヒアルロン酸の骨芽細 胞への応用	900,000
有歯補綴	田中 順子	若手研究(B)	プロフェッショナルケアによるクラウンの 二次う蝕予防プログラム作成	900,000
高齢歯科	田中 栄士	若手研究(B)	食物認知が口腔期嚥下に及ぼす影響につい て	1,600,000
生化	合田 征司	若手研究(B)	骨免疫に関与するT細胞活性化の解析	1,200,000
合計28件(内 継続18件)				38,300,000

## 平成17年度大阪歯科大学学術研究奨励助成金採択者一覧

所 属	氏 名	研 究 課 題	助成額(円)
生 化 大学院 3年	堂前 英資	破骨細胞分化に影響をあたえるcofactorの検討	896,000
病 理 大学院 4年	畑 慎太郎	ヒト歯肉上皮細胞に対する各種歯周病原菌の影響	900,000
歯科理工 大学院 3年	笥 晋平	チタン製インプラント材料表面改質に関する研究	899,000
歯 周 病 大学院 4年	田口洋一郎	歯肉上皮細胞および線維芽細胞に対する歯周病原菌の影響	900,000
小児歯科 大学院 4年	渡邊 京子	歯周疾患の病態変化に及ぼすAdenosine関連代謝物の影響	884,000
歯科矯正 大学院 4年	荒垣 芳元	顎整形力による顎顔面頭蓋の変形に関する力学的検討 —三次元有限要素法による解析—	887,000
生 理 手 助 手	高井 規安	唾液を用いた抗精神薬の薬物動態モニタリングの可能性	783,000
生 化 師 講 師	田村 功	ヒト口腔組織由来細胞におけるEarly Growth Responseの 動態と成長因子による発現の影響	791,000
細 菌 手 助 手	住田 容子	バイオフィーム形成菌の菌体外多糖産生関連遺伝子の解析	788,000
高 齢 歯 科 助 手	高橋 一也	咬合力発現時における総義歯装着者の粘膜厚径の動態に関 する研究	759,000
有 歯 補 綴 助 手	佐藤 正樹	頭蓋顔面系における三次元咬合力の解析	754,000
口 腔 外 科 二 助 手	山本 浩貴	エナメル上皮腫の分化誘導療法の研究	759,000
合計12件			10,000,000

平成17年度 大阪歯科大学共同研究助成採択者一覧

所 属	研究代表者	研 究 課 題	助成額(円)
生 化	池尾 隆 他17名	歯科領域における再生医療の可能性 (継続)	4,500,000
歯科麻酔	小谷順一郎 他5名	咀嚼障害における高次脳機能のシステムの解明 (継続)	2,710,000
口腔外科一	森田 章介 他13名	口腔前癌病変の癌化機序に関する分子病理学的研究(継続)	2,910,000
高齢歯科	小正 裕 他7名	発声を要する運動時のマウスガード装着による外傷防護 (継続)	2,470,000
口腔衛生	神原 正樹 他9名	バイオフィームと初期歯肉炎の光学的検出に関する研究 (新規)	5,000,000
内 科	堂前 尚親 他11名	全身疾患の関与による口腔疾患発症機序の解明と、それらの疾患の予防法及び治療法の確立 (新規)	4,120,000
合計 6 件			21,710,000

平成17年度 学術研究奨励資金採択者一覧

所 属	研究代表者	研 究 課 題	助成額(円)
内 科	堂前 尚親 他10名	辺縁性歯周炎の発症・進展機序の解明 - 全身疾患の誘因や合併症としての観点から - (継続)	7,100,000
合計 1 件			7,100,000

\* 事業団補助 1,570,000円

平成17年度 口腔インプラント研究助成(玉置基金)採択者一覧

所 属	研究代表者	研 究 課 題	助成額(円)
高齢歯科	岡崎 定司 他3名	インプラント埋入後の早期荷重に関するリン酸カルシウム骨セメントの効果 (新規)	650,000
口腔外科一	森田 章介 他3名	生体材料と徐放化成長因子による歯槽骨造成に関する実験的研究およびトランスレーショナルリサーチ (新規)	1,200,000
口腔外科二	覚道 健治 他4名	各種インプラントの表面性状に及ぼすPRP(多血小板血漿)の影響と顎骨再生に関する組織学的検討 (新規)	650,000
有歯補綴	楠本 哲次 他6名	インプラント補綴装置における咬合接触状態の評価(新規)	500,000
合計 4 件			3,000,000

### 大阪歯科大学公開講座・天満橋講座

今年で13回目を迎えた公開講座が8月20日から9月10日までの毎週土曜日に、本学天満橋学舎西館5階臨床講義室にて開講された。

連日の猛暑のなか、延べ379名(第1週113名,第2週85名,第3週87名,最終週94名)の聴講者が出席された。年齢層も職業も異なる方々が熱心にメモを取りながら、またうなずきながら聞き入って学ぶ姿に深い感銘を受けた。熱意は講座終了後も続き、講師の先生に疑問・不安を問いかける方が後を絶たなかった。

4週連続して出席された61名を代表して、73歳の男性に修了証書と記念品(第12回公開講座講演集)が森田章介公開講座委員会委員長から手渡され、天満橋講座は終了した。

今回のメインテーマ「口や歯の病気で悩んでいる人のために」のもとに、講演していただいた講師は下記の通りである。なお、同テーマで平成18年2月18日から3月11日にかけて毎週土曜日に枚方講座が、本学楠葉学舎講堂にて開催される。

#### 第13回公開講座(天満橋講座)

日程	演題	講演者
8月20日	口臭で悩んでいる	講師 上田 雅俊 座長 田中 昭男
8月27日	口が開けにくくて悩んでいる	講師 覚道 健治 座長 諏訪 文彦
9月 3日	唾が出なくて悩んでいる	講師 岡崎 定司 座長 西川 泰央
9月10日	入れ歯で悩んでいる	講師 兼平 治和 座長 清水谷 公成

### 平成17年度 備品調査

平成17年度の備品調査は、8月26日に楠葉学舎、牧野学舎、歯科技工士専門学校、歯科衛生士専門学校、8月29日に天満橋附属病院、歯科衛生士専門学校において法人役員、公認会計士立会いのもと、今年度調査対象備品である1,095点について調査を行いました。

調査に先立ち、機器備品一覧表を各部署に配布し、

機器備品の有無と常置場所の確認、備品シールの貼り付け状況、用品台帳、廃棄備品の有無等について確認していただきましたので、調査はスムーズに実施できました。備品シールの貼っていないもの、不鮮明なもの、備品持ち出しおよび貸出中の記録の無いものなどが少数ありましたが、全体的にはよく管理されており、各部署の立会人の協力を得て、スムーズに調査を終えることができました。調査結果をもとに財産の維持管理に努めていただきたいと思います。

調査に際しては、各部署の立会人ならびに調査にたずさわっていただきました調査員の方々に、お礼申し上げます。

#### 平成17年度備品調査・調査部署および点数

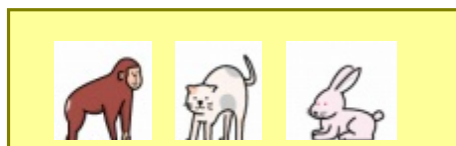
調査部署	点数
講座・教室	305点
中央歯学研究所	47点
大学事務	168点
牧野学舎	3点
附属病院	348点
歯科技工士専門学校	8点
歯科衛生士専門学校	216点
合計	1,095点

### 平成17年度 実験動物慰霊祭

平成17年9月20日(火)午後2時40分より、実験動物慰霊祭が牧野学舎において執り行われた。

多数の教職員、大学院生および学部学生が参列するなか導師の読経が始まり、歯科医学の教育・研究のために尊い命を犠牲にした実験動物たちの冥福を心より祈り、参列者一同が焼香を行った。

慰霊祭の最後に、今井学長より「実験動物の必要性、重要性、研究者・実験者としての使命など、動物とのかかわりの上にとって人類の生存と繁栄があることを深く認識し、感謝の念を忘れてはならない」との挨拶があり、今一度、動物たちの御霊に対し全員で合掌し、実験動物慰霊祭は厳粛な内に終了した。





コロンビア大学短期研修コース  
「インプラント2005」

アメリカで最も入学難易度の高い大学の一つに数えられるコロンビア大学との学術交流協定は2004年7月23日に締結されたが、その後イラク情勢の悪化等に伴い正式な調印式は延期されていた。

しかし、協定書にあるコロンビア大学における『ポストドクター専攻プログラム及び短期専門学習コースへの参加』条項に従い調整を重ねた結果、『コロンビア大学インプラント研修セミナー2005』として本学初となる海外での研修セミナーが開講されることとなり、それに併せて延期されていた学術交流協定書調印記念式典も開催される運びとなった。

7月17日(日)早朝、佐川寛典理事長が見送られるなか、代表団として今井久夫学長、川添堯彬副学長、諏訪文彦国際交流部長ほか40名に上るセミナー参加者を乗せた国際便はニューヨークに向け飛び立った。

学術協定書調印式ならびに研修セミナー開講式

7月18日(月)(現地日)、コロンビア大学・大阪歯科大学学術交流協定書調印記念式典ならびに『コロンビア大学インプラント研修セミナー2005』開講式が、コロンビア大学メディカルセンターにおいて開催された。

式は初めに、コロンビア大学を代表して Dr. Ira B. Lamster 歯学部長の祝辞があり、引き続き今井学長より協定書締結ならびにセミナー開講の祝辞と佐川理事長が公務のため欠席された旨の報告が述べられた後、下記の式次通り進行し盛況のうちに式典は無事終了した。

一式 次一

- ・コロンビア大学 Dr. Peter D. Wang 挨拶
- ・大阪歯科大学 川添堯彬副学長挨拶
- ・コロンビア大学 Dr. Letty Moss 挨拶
- ・学術交流協定書調印
- ・記念品交換
- ・大阪歯科大学 諏訪文彦国際交流部長挨拶
- ・閉式

＜学術交流協定書の調印式および研修訪問を伝えるコロンビア大学のホームページ＞

FOR IMMEDIATE RELEASE

Columbia University School of Dental & Oral Surgery  
and Osaka Dental University Sign Education and Research Partnership Agreement

40-Person Osaka Dental University Delegation Visits Columbia

NEW YORK, NY, July 20, 2005 – The educational, research and patient care programs at Columbia University’s School of Dental and Oral Surgery (SDOS) have attracted the attention of a top university across the globe. This week, a delegation of 40 senior administrators, faculty and alumni of Osaka Dental University in Japan visited Columbia SDOS as part of an educational and research agreement between the two universities.



The Osaka Dental University representatives formally signed the partnership agreement this week, which involves joint research projects, the exchange of reference materials and participation in postdoctoral specialty programs and education courses by faculty and students from both universities. The Japanese dentists also participated in a week-long comprehensive course in dental implantology this week at Columbia.



The international collaboration is a part of Columbia SDOS’s continuing mission to address oral health problems through groundbreaking bioscience-based research and innovative approaches to delivery of care.

“Osaka Dental University is a highly regarded clinical and research institution and we are pleased to be working with them. Both institutions will benefit from the important partnership,” said Ira Lamster, D.D.S., M.M.Sc., Dean of the Columbia University School of Dental and Oral Surgery. “There is a growing recognition that important oral healthcare problems exist throughout the world, and that oral infections can be risk factors for systemic diseases. Only by working across international borders will we be able to address this problem.”



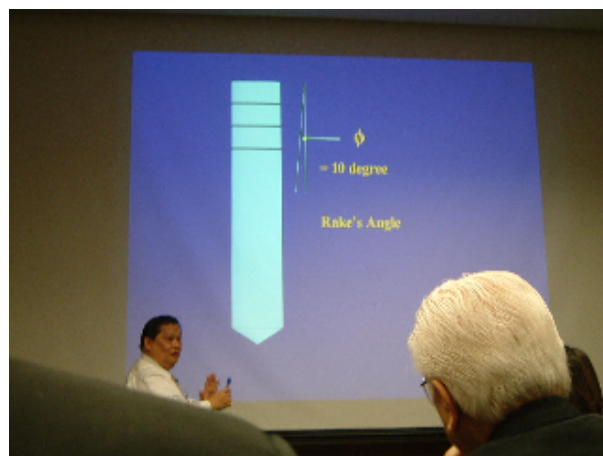
調印式で挨拶する今井学長

### インプラント研修セミナー2005

コロンビア大学主催、大阪歯科大学協賛により7月19日(火)から7月22日(金)の4日間の日程で、Dr. Ira B. Lamster コロンビア大学歯学部長始め、Dr. Peter D. Wang, Dr. George S. White, Dr. Michael Z. Marder, Dr. Panos N. Papapanou, Dr. Sidney B. Eisig 等の同校講師陣と世界的なインプラント企業である Nobel Biocare

社の技術員達により、アメリカにおける最先端のインプラント技術と情報に関する講義が行われ、参加者からも好評のうちに終了した。

また、コロンビア大学からも参加者の熱心な受講姿勢について高い評価を受けた。



研修セミナーの様子

### 学術交流協定書締結のセレモニー



この研修セミナーは、冒頭でも記載したように、本学に関わるすべての教職員、臨床歯科医師、大学院生、研修生ならびに卒業生を対象にした生涯学習の一つであり、他大学には見られないものである。

今後も歯科医療のニーズに合わせて、より充実したプログラムを企画し、開催していく予定である。

今回の研修セミナーを成功に導き、またコロンビア

大学からも高い評価を得られたことは、参加者は勿論であるが、それ以上に、川添堯彬実行委員長を筆頭に江藤隆徳、江原雄二副実行委員長、方一如、藤田淳一、田中順子実行委員のご協力の賜物といえる。

最後に、今回の『コロンビア大学インプラント研修セミナー2005』に参加された、4名の教員ならびに大学院生の受講感想文を下記に掲載した。

<インプラント研修セミナー2005に参加して>

総合診療部診療科科長  
病院教授 小出 武



欧米の歯科臨床をじっくり見てみたいという長年の夢が実現し、ほんとうに幸せです。若い先生たちに負けまいと時差ぼけの眠い目を必死に擦りながら、コロンビア大学のWang先生をはじめとする同校先生方の講義に聞き入りました。優秀な通訳のおかげで十分理解でき、さらに、質問もスムーズにおこなえ、講師からは丁寧に答えていただきました。懇親会では身の程知らずの無手勝流でLamster先生やご家族と会話を交し、楽しいひとときを過ごすことが出来ました。また、このセミナーを通して多くの先生と知り合いになりました。南館2階にある診療室で奮闘している姿を是非みに来てください。最後に、このような素晴らしいセミナーを開催していただいた理事長、学長はじめ、実行委員の先生方に感謝いたします。

歯周病学講座  
助手 信藤孝博



この度は、大阪歯科大学・コロンビア大学学術協定の調印記念式並びに第一回セミナーに参加させていただけたことに大変感激しております。これも今井学長、川添副学長、諏訪国際交流部長をはじめとする多くの先生方の献身的なご努力によるものと心より御礼申し上げます。今回の研修ではDr. Lamster, Dr. Wangを中心とするコロンビア大学の最高のスタッフにより、インプラントの基礎から実際にいたるまで、綿密な研修プログラムが立てられていました。インプラント治療はアメリカでは最もスタンダードな治療のひとつであり、補綴専門医と歯周治療専門医あるいは口腔外科専門医とのコラボレーションによりなされ、特に補綴主導で行われていました。つまり、補綴専門医によるSet-Up Model, Provisionalization, Surgical Templateの製作から始まるTop-Down Treatmentであることが理解できました。私自身、歯周治療に携わる一人として、補綴専門医の要望に応えられるべくスキルを上げなければなりません。今回の研修で、包括診療にかかわっていただけるための努力目標を見つけることができ、大変感謝しております。ありがとうございました。

大学院有歯補綴咬合学専攻  
3年 鶴身暁子



当初、インプラントの経験はおるか歯科医師としても未熟な私達にとって、このセミナーを受講する意義がどれだけあるのか疑問でした。予想通り、講義内容は難解でありました。しかし、私達の稚拙な英語での質問にも一つ一つ丁寧に答えてくださる教授陣のおかげで理解することができました。また親切に対応してくださったスタッフの方々、キャンパス内では環境、文化面においても充実し、専門性に偏らない人間性を育む配慮がなされていることに感銘を受けました。この経験を今後の歯科医師人生に役立てたいと思います。記念すべき第1回目に参加させて頂いたことを感謝いたします。

有歯補綴咬合学講座  
助手 田中順子



今回、コロンビア大学インプラント研修セミナー2005を受講したことは、私にとって大変貴重な経験でした。過去に日本語の講義しか受講したことがなかったため、英語での講義は新鮮で緊張感がありました。また、コロンビア大学で研究されている内容の講義を受けられたことは、大変価値がありました。このような気持ちは私だけでなく、皆同様だったと思われます。それは、講義や実習の合間に質問が受け付けられると、多くの先生が手を挙げ、自分の疑問を次々と尋ねられていたからで、非常に白熱した5日間でした。

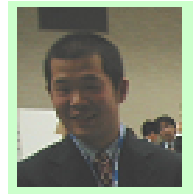


“インプラント2005”研修日程	
研修内容：インプラントの総合講義	
期 間：平成17年7月17日(日)～7月23日(土)	
7/17(日)	関西国際空港出発
7/18(月)	Columbia University Medical Centerにて研修 開講式 歯学部長講演「歯周病学の論点」 Ira B. Lamster 歯学部長 メディカルセンター見学 メインキャンパス見学
7/19(火)	Nobel Biocare Education Center(NJ)にて研修 講義「オッセオインテグレーション:概念と進展」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) 講義「プレ・インプラント外科」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) 講義「ステージワン・インプラント外科」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) 実習指導
7/20(水)	Nobel Biocare Education Center(NJ)にて研修 講義「補綴治療計画①」 George S. White 助教授(補綴) 講義「補綴治療計画②」 George S. White 助教授(補綴) 講義「補綴治療計画③」 George S. White 助教授(補綴) 実習指導
7/21(木)	Irving Cancer Research Centerにて研修 ビデオ講義「インプラント外科①」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) ビデオ講義「インプラント外科②」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) 講義「インプラント外科」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) まとめ 夕食会
7/22(金)	Irving Cancer Research Centerにて研修 講義「インプラントにおける合併症」 Peter D. Wang 臨床助教授(歯周病) 講義「インプラントにおける医学的挑戦」 Michael Z. Marder 臨床教授(口腔外科) 講義「口腔感染症の全身への影響」 Panos N. Papapanou 主任教授(口腔・診断部) 講義「口腔顎顔面外科の動向」 Sidney B. Eisig 主任教授(病院歯科部) まとめ
7/23(土)	関西国際空港到着

第11回 SCP 日本代表選抜大会で  
5年生の陳 資史さんが研究発表



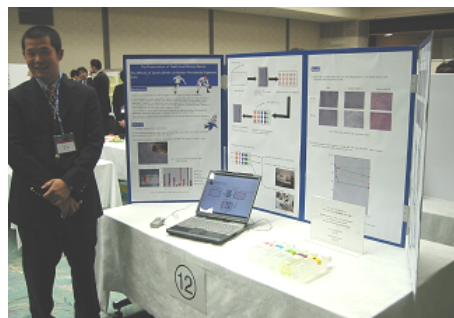
第11回「スチューデント・クリニシャン・プログラム(SCP)」日本代表選抜大会が、平成17年8月10日歯科医師会館において開催され、本学から5年生の陳 資史さんが参加し、研究成果を発表した。



「スチューデント・クリニシャン・プログラム」は、1959年に米国歯科医師会(ADA)の設立100周年にあたり、歯学生による研究発表を企画したことが始まりです。現在では、カナダ、イギリスをはじめ30数カ国で開催され、日本でも平成7年から「SCP日本代表選抜大会」が、日本歯科医師会の主催により開催されている。日本代表選抜大会という名称のとおり、優勝者はADAの年次総会でのSCP大会に招待され、日本代表としてプレゼンテーションをする機会が与えられる。

8月10日に行われた第11回大会では、22校22人が参加し、各自の展示テーブルにおいてパネル等を使って研究成果を発表する「テーブルクリニック」という形式でそれぞれの研究をアピールした。発表、質疑応答ともすべて英語で行われた。陳 資史さんは『もし、スポーツ中に歯が抜けたらスポーツドリンクがヒト歯根膜細胞に及ぼす影響』というテーマで発表したが、惜しくも上位入賞は逃した。

陳さんは「学内掲示で大会のことを知り、英語にも興味があり、昨年シドニー大学訪問研修で自信もできたので参加した。研究に際しては、大東先生、池尾先生、塩路先生に指導を受けた。各校で切磋琢磨して文科系の歯学体のようになれば」と話してくれた。



寄 贈

・北條 博一先生

定年退職を記念して 平成 17 年 7 月 5 日寄贈  
インプラント研究助成金として 1,000,000 円也

学位（博士）授与報告

中村利央 乙第1466号 (平成17年9月28日)

難治性根尖性歯周炎から分離されたバイオフィルム  
様構造をもつ好気性有芽胞グラム陽性桿菌の同定と  
性状

小幡 登 乙第1467号 (平成17年9月28日)

Exopolysaccharideを産生する黒色素産生グラム  
陰性桿菌について - その同定, 病原性および  
exopolysaccharideの化学組成 -

井東竜彦 乙第1468号 (平成17年9月28日)

Development of cerebral edema and changes in  
autoregulation of cerebral blood flow caused by  
regional cerebral venous infarction in rabbits  
(ウサギにおける局所脳静脈梗塞による脳浮腫発現  
と脳血流自己調節能の変化)

人 事

教員採用

薬理学講座 助手 福田伊津子  
H. 17. 7. 1付

職員採用

医事第一課 事務職員 栗村 法往  
教務学生課 事務職員 中西 隆也  
大学庶務課 事務職員 日笠 和子  
以上H. 17. 7. 1付  
人事課 事務職員 山本 晃也  
H. 17. 8. 1付

依願退職

附属病院 看護助手 畑山 恵子  
H. 17. 7. 31付

委 嘱

人事委員会委員 井上 宏  
H. 17. 9. 27付

学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会委員  
樫 則章, 西尾 和夫  
三木 慶一

以上H. 17. 7. 28付  
学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会委員

覚道 健治  
学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会大学部門  
委員会委員長 豊田 紘一

学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会大学部門  
委員会委員 田中 昭男, 堂前 尚親

大東 道治, 川本 達雄  
樫 則章, 末瀬 一彦  
矢尾 和彦, 堀之内尚樹  
三木 慶一, 伊藤 淑子  
西堤 京子

学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会病院部門  
委員会委員長 覚道 健治

学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会病院部門  
委員会委員 井上 宏, 小正 裕

小谷順一郎, 嘉藤 幹夫  
佐久間泰司, 西尾 和夫  
森田 恭生, 今道 裕之  
東 真一郎, 岩本 匡生

学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会事務部門  
委員会委員長 上田 実

学校法人大阪歯科大学個人情報保護委員会事務部門  
委員会委員 田中佐和子, 前野 隆

西尾 和夫, 東野 隆  
中矢 善彦, 三木 慶一  
松村 誠一, 牧谷 弘幸  
高須 聡, 東 真一郎  
以上H. 17. 9. 29付

大阪歯科大学広報 第139号

発行日 平成17年9月30日

編集発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町 8-1

電話 072-864-3111